

現在の札幌市豊平区水車町（1～8 丁目）は、明治 43 年に札幌市(当時は札幌区)に編入されるまで、豊平町(明治 41 年までは豊平村)の一部でした。

同地区を流れる「水車川」には、全盛期で 7～8 基の水車があり、札幌の精米・製粉を担っていたそうです。

1 豊平町(村)時代

明治 7 年(1874 年)	豊平村が開村
明治 35 年(1902 年)	豊平村・月寒村・平岸村が合併、新しい豊平村が誕生
明治 41 年(1908 年)	町制施行により「豊平村」⇒「豊平町」へ
明治 43 年(1910 年)	札幌区(当時)に豊平町の一部が編入⇒「札幌区字豊平町」へ



出典：広報さっぽろ 2020 年 9 月号豊平区版

水車町には、明治 30 年代から大正末期にかけて、豊平川の枝川（水車川）をまたぐように 7 軒の水車小屋がありました。小屋の中では、大人の背丈の 2 倍ほどの大きな水車が一日中回り続け、精米や製粉のための動力源として使われていました。



写真-3 復元された水車小屋

昭和初期に、電動の機械が導入されると、水車の姿は見られなくなっていました。昭和 48（1973）年に、水車川が埋め立てられた後、昭和 53（1978）年には、遊歩道として使われるようになりました。旭小学校には復元された水車があり、地域や子どもたちにまちの歴史を伝えています。

出典：2024.3 札幌市豊平区『豊平区の歴史』

大正 11 年(1922 年)	市制施行により札幌区⇒「札幌市」へ
大正 14 年(1925 年)	札幌市字豊平町⇒ 「札幌市豊平河岸 1～9 丁目」へ町名変更
昭和 25 年(1950 年)	札幌市豊平河岸 1～9 丁目⇒ 「札幌市水車町 1～13 丁目」へ町名変更
昭和 47 年(1972 年)	区制施行により「札幌市豊平区」誕生
昭和 54 年(1979 年)	札幌市豊平区水車町 1～13 丁目を、 「札幌市豊平区水車町 1～8 丁目」に再編（町の区域の変更等）

昭和の初め、電動の機械が導入されたことにより、水車は姿を消しました。しかしその後も水車は地域の原風景であり続け、水車川や水車通りという名は残りました。昭和 25 年には「豊平河岸 1～9 丁目」が「水車町 1～13 丁目」に町名変更されています。

水車川は昭和 48 年に埋め立てられましたが、今後も「水車町」という町名は引き継がれていきます。

昭和三十五年六月十九日

昭和三十五年六月十九日

告 示

○北海道告示第五百三十二号

地方自治法第二百六十條第一項の規定により、昭和二十五年七月一日から、札幌市の区域内の各々の区域及び名称の一部を次のとおり変更する旨、同市長から届出があつた。

昭和二十五年六月十九日

北海道知事 田 中 敏 文

変更する名称及び区域

南六條西二十丁目

南六條西二十丁目及び至西

南六條西二十丁目

南六條西二十丁目及び至西

南六條西二十丁目

南六條西二十丁目及び至西

南六條西二十丁目

南六條西二十丁目及び至西

南六條西二十丁目

南六條西二十丁目及び至西

従来の名称及び区域

南六條西十八丁目の一部及び山田町の一部

山田町の一部

南六條西十八丁目の一部及び山田町の一部

山田町の一部

南六條西十八丁目の一部及び山田町の一部

山田町の一部

南六條西十八丁目の一部及び山田町の一部

山田町の一部

南六條西十八丁目の一部及び山田町の一部

山田町の一部

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水車町

水

[illegible][illegible]